

部活を引退して思うこと

三年 菅谷 浩二（平成三年度）

僕は今、中学三年。部活はすでに引退している。僕が入っていたのは、バスケットボール部だ。僕が一年の一学期が終わる一週間前くらいにできた新しい部だった。僕はバスケット部ができる前あたりまで、家の都合で転校するかどうするか、たいへん悩んでいた。その時、担任の先生に「バスケットやりたくないか」と言われ、僕は、「やりたい」と答えた。そして、それから数カ月たってバスケット部ができた。その時僕は、二つに一つ、選択に悩んだ。考えた末に、親や兄弟と離れて暮らすようになって、島に残って頑張ろうと思った。やるからには最後まで精一杯やろうと自分に言いかけながら親、兄弟と離れて暮らすようになった。今でも自分のとった行動に後悔していない。

そして、部活を引退してしまった今、僕は心のどこかにポツカリと大きな穴があいたような感じがする。もう苦しい練習をしないでもいいはずなのに、現役の時練習が嫌いだっただけなのに、今は、無性に部活がやりたくてしょうがない。バスケットをした人にしかわからないと思うが、リングのどこにもかすらずに、スポツとボールがゴールに入る時は、言

葉では言い表しにくい、何というか、いやなこと全部忘れさせてくれるほど気持ちがいいものだ。練習は苦しい時やつらい時もあつたが、今思えばどれをとつても、いい思い出ばかりだ。

短い期間しかバスケットができなかったが、僕はバスケットを通して、何か一つ学べたような気がする。ある本に次のような言葉が載っていた。

基本あらずして、応用なし。

練習あらずして、勝利なし。

これは、部活にも勉強にも言えることで、確かにそのとおりだと思うようになった。

三年生最後の地区総体では、わずか一年ちよつとの練習で、三位に入賞することができた。周りの人から見れば、たかが三位かもしれないが、僕たち三年生にとつては、優勝に等しいくらいうれしかった。このうれしさを後輩たちにも味わってほしい。

そして、最後に後輩たちにこう言いたい。後悔しないように、今この時を精一杯頑張つてほしい、と。